

様式1 令和3年度 山梨県立白根高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針 「自主自立」「進取研鑽」の校是の下、幸福な人生を送るために必要な資質・能力を身につける生徒の育成を目指す。

山梨県立白根高等学校 校長 中村 千尋

本年度の重点目標	主体的・対話的で深い学びによる学力向上の推進
	規範と相談による生徒指導体制の確立
	幸福追求を目的とするキャリア教育の推進
	体育・文化活動による健康・安全教育の充実

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

本年度の重点目標			年度末評価(1月17日現在)			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	主体的・対話的で深い学びによる学力向上の推進	主体的・対話的で深い学びを重視した授業研究等に組織的・計画的に取り組み、授業改善を図ります。  グローバル社会を生き抜くために必要な知識・技能を定着させるため、家庭学習を推進し、主体的な学習の定着を図ります。	校内研修会の実施状況 相互授業観察(授業観察シート)の分析  学校改善アンケートによる評価・分析 二者・三者懇談	・前年度に実施した授業改善研修会を受けて、各教科で、ICTを活用した授業展開が試みられた。 ・令和4年度からの新課程に対応する指導と評価方法の検討を各教科で検討し、「思考力・判断力・表現力」学びに向かう姿勢の評価を検討した。 ・今年度もコロナ禍の中で夏休み明けの分散登校期間もあり2回の相互授業参観が思うように予定通り実施できなかったが、教科毎や教科を横断して学び合う機会とすることができた。 ・次世代キャリア教育教材「エナジード」二科目の展開、クロスカリキュラム「HAPPY」の実施を通して、教科横断型の取り組みを図った。 ・家庭学習については、教職員・保護者・生徒が皆不十分と感じているが、本年度Classiを導入したことで動画配信等も駆使して、生徒に家庭学習を働きかける試みを行った。	B	・次年度以降も積極的に相互の授業参観を実施したり、研修会を実施したりするなどして「互いに学び合う教職員集団」を目指す。 ・家庭(保護者)との連携をさらに深め、家庭学習時間の確保と、授業と家庭学習との有機的な繋がりを図ることは一昨年、昨年度からの課題と認識しているが、次年度以降も粘り強く取り組んでいく。 ・クロスカリキュラムについては、次年度も継続して行い、スクールスローガン「HAPPY」を実現すべく、教科を超えて学校全体で組織的に取り組んでいく。
2	規範と相談による生徒指導体制の確立	学校全体として組織的な生徒指導体制を確立し、規範意識の向上を図り、基本的な生活習慣の確立に努めます。  教育相談を基調とした共感的な生徒理解と居場所づくりを図り、生徒と教師の信頼関係、生徒同士の望ましい人間関係を形成し、いじめや不登校のない学校生活の実現に努めます。	挨拶・身だしなみ指導及び登下校指導・マナーアップ運動の実施状況  SCの活用状況 生活実態調査の結果分析	・挨拶・身だしなみ・登下校指導においては、全教職員で行う指導体制のもと成果を上げている。「基本的な生活習慣の確立」について、保護者や教員アンケートにおいては高評価となっている。校則については生徒の中には窮屈さを感じている者も若干いた。 ・「生徒理解と居場所づくり」は、学年を中心に担任、教科担当、部活動顧問、保健室等の連携が密接になれ、生徒に寄り添った指導がなされた。また、教育相談体制も、コーディネーターを中心に組織的に行えた。SCの活用も効果的であった。 ・いじめを許さない雰囲気づくりに努めた。特にSNSの利用について、重点的に指導した。 ・家庭や地域社会への情報発信として、各係からのたよりやHP、Classiによる広報活動を積極的に行った。 ・コロナの関係で今年度も、地域住民との防災訓練は実施できなかったが、コミュニティ・スクールとして新たな学校と地域、生徒及び教職員と地域住民の事業をスタートさせ連携を意識することができた。	A	・小規模校の苦しい人員配置のもとで、各教職員への負担が増し校務分掌の不公平感が教職員間にある中でも、学校の教育目標及び校長の運営方針が職員会議や個別面談等を通して、全教職員への共通理解が図られ、チームとして生徒指導に取り組む協働体制を構築することができた。 ・特別支援・いじめ防止委員会を年間複数回実施することで共通理解を図り、気になる生徒の情報共有、課題や問題点を認識するとともに、次年度に向けた対策を検討した。 ・地域社会との関わりを強化するため、今年度もコロナ関係でなかなか実施できなかったが、わかば支援学校との交流やフードバンク山梨への協力等を次年度以降も積極的にやっていく。 ・コミュニティ・スクールとして、地域の各関係機関と連携をさらに密に行っていく。
3	幸福追求を目的とするキャリア教育の推進	生涯の幸福追求を目的とし、個々の「在り方生き方」を考えさせるキャリア教育を推進します。  ポートフォリオシステムを活用し、学びの成果を可視化することで、積極的に進路決定を目指す姿勢を育みます。  インターンシップ、進路学習、進路講話、進路面談等を通して、自己の適性に応じた進路実現を図る態度を育成します。  コミュニティ・スクールとして家庭や地域・産業界などとの密接な連携を図り、地域に貢献できる人材を育成します。	「総合的な探究の時間」を通じた課題やレポートの内容評価  キャリアパスポートを通じた課題やレポートの内容評価	・「総合的な探究の時間」では、目指す生徒像に沿った授業がほぼ実施できた。 ・コロナ禍の中でもインターンシップが実施でき、生徒の進路意識の向上に成果を上げることができた。生徒も意欲的に臨み、アンケートでもほとんどの生徒が有意義であったと答えている。 ・今年度もコロナ禍の中でフードバンク山梨の活動としては本校での仕分け作業ができなかったが、PTAの協力の下、年2回実施することができた。次年度は生徒が中心となり積極的に参加しボランティア精神の涵養を図れるような方策を模索する。 ・看護師体験等の体験学習に生徒を積極的に参加させ、自己の進路目標を明確化させるとともに、社会性など社会で求められる能力資質を育むよう努めた。	A	・生徒の多様な進路目標を実現させるため、教育課程の編成や授業改善、小論文・面接の個別指導などにおいて、さらに工夫・改善を図っていく。 ・今年度はコロナ禍の中でも、地域や企業の御好意によりインターンシップを実施することができた。インターンシップについては、個々の生徒にさらに明確な目的意識をもって臨ませるとともに、生徒自身が目指す職業に少しでも通じるような体験ができるような就業体験先の発掘を推進していく。 ・看護師体験等の体験学習の機会を多く設け、キャリア教育の一層の充実を図っていく。
4	体育・文化活動による健康・安全教育の充実	部活動への積極的な加入を図り、健やかな体やしなやかな心を育成し、他と協働しながら生きる力を育みます。  学校内外における体育・文化活動を通じて、生徒と教師・生徒同士の望ましい人間関係の形成を図るとともに、学習意欲の向上や責任感・連帯感・忍耐力等を培います。  家庭や地域社会との連携を図り、自然災害への対応や安全教育を通して、生命を大切に指導に努めます。  生涯にわたって健康で安全な生活を送るために必要な資質・能力の育成に努めます。	学校HPや広報誌の活用状況 学校評価アンケートによる評価・分析  活動報告と学校評価アンケートによる評価・分析  学校評価アンケートによる評価・分析	・学校や生徒の活動状況を学校ホームページにタイムリーで紹介することができた。また「生徒会だより」を通じて保護者には大会等の成果を報告することができた。 ・部活動の生徒を中心に、生徒達が来校者や教職員に挨拶が自然にできるようになってきたと学校内外から好評を得られるようになった。 ・部活動においては、コロナ対応を含め「やまなし運動部及び文化部活動ガイドライン」に則った部活動方針を教職員に周知し、適切な活動がなされるよう努めた。特に、活動日と休業日を明確に設定し、メリハリのある活動計画を策定し、併せて学習との両立にも留意した。 ・バイク通学者対象安全運転講習会を年2回、交通安全指導、防犯教室等々を適宜実施し、安全な生活を送るために必要な資質・能力の育成に努めた。	A	・各部活動においては、年間及び月間の活動計画を策定し、生徒にあらかじめ示すことにより生徒が見通しを持って学校生活や部活動ができるようにさらに努める。また、メリハリのある部活動を継続して行い、学習との両立を図っていく。 ・部活動への加入率をさらに上げる工夫を全校体制で考え、部活動が活発に行われる環境を醸成し、生徒の学校生活の充実と学校の活性化に繋げていく。 ・外部団体に所属し活動している生徒に対しても、学校生活の充実、特に学習との両立がなされるよう関係団体とも協力して指導していく。

学校関係者評価	
実施日(令和4年2月15日)	
評価	意見・要望等
4	・教科横断型授業の推進を通して生徒の考える力と、コミュニケーション能力の向上に更に努めていただきたい。 ・コロナの影響で分散登校など目まぐるしく変わる授業環境の中でも、Classiの導入やICTの活用を含め学力向上への様々な試みがみられた。こうした取り組みを通して課題とされる家庭学習環境の改善につなげてほしい。 ・コロナ禍での授業、家庭学習の工夫が多数見受けられる。この時期なのでICTの多用が必要と考える。 ・ICTを活用した授業にはまだまだ課題が有り、時間をかけて構築していく必要がある。 ・インターンシップや地域とのつながりをベースとした「人づくり」を通じた「確かな学力」向上策を行っているところが高く評価できる。 ・コロナ禍の中、色々と工夫をされた学校の活動感心する。Classiが導入されて家庭学習、保護者との連絡等がスムーズに行える事が出来たのではないかと。来年度からの1人1台の端末購入でさらにスムーズに進むことを期待する。 ・大変厳しい教育環境の中でよく工夫されて努力していることを感じる。ICTの取り組みも積極的にであり、生徒のためという先生方の熱い思いを痛々と感じる。
4	・生徒指導の体制は既に確立されていると思うので、継続していただきたい。 ・職員チーム意識が感じられ、組織的な対応は評価できる。生徒や保護者アンケートからも高い評価がうかがえる。 ・小規模校の限られた職員にもかかわらず、しっかりとした生徒指導体制の確立と履行により、いじめや不登校のない、明るく快活な環境を作り出していることは、大いに評価したい。今年の卒業生の3分の1が皆勤賞対象者であることはその証である。 ・基本的な生活習慣については、確立されていると思われる。多岐にわたる生徒対応も教職員の連携が見受けられる。 ・限られた教職員の中での生徒指導に感謝したい。 ・教職員が生徒と向き合い、生徒が人として輝ける生徒指導体制が取れているところが高く評価できる。 ・山梨県の公立高校では、白根高校の生徒のあいさつが一番良い。 ・他校はわからないが、挨拶等は良くできていると思う。ただ私が慣れたのかわからないが、2〜3年前から比べると少し挨拶量が増ったかもしれないと感じる。 ・生徒たちの生き生きといて楽しそうにしている姿をよく拝見する。元気に挨拶もよくしてくれていい学校だな〜としみじみ思う。遠くからの自転車通学の生徒もたくさんいて、よく登下校の生徒を見かけると、交通ルールもしっかり守り真面目な印象である。
4	・コロナ禍ではあるが、インターンシップや、フードバンクへの取り組み等継続してほしい。 ・本校の強みであり、これからも継続していただきたい。 ・他校に多様な進路目標の設定を可能とするインターンシップやボランティア活動への参加など様々な体験を通して生涯の幸福追求を目的とするキャリア教育の実現に努めたい。 ・多くの企業協力のもと、実効的なインターンシップが実施できたと思われる。生徒の目的意識もはっきりしていると思われる。 ・人生について、1番大切なテーマなので部外の方の多くの話を聞ける時間を取っていただきたい。 ・大学へのトンネルではなく、「幸福追求を目的とするキャリア教育の推進」をベースとしていることにより、生徒の知徳体、生きる力の育成を図っているところが高く評価できる。 ・キャリア教育は早くよりインターンシップ活動が行われ、他校に比べ積極的であると思う。今年度からのコミュニティスクールでさらにいろいろな活動ができる状況になる予定であったが、コロナ禍により妨げとなってしまい残念。来年度はボランティア活動等、積極的に出来ることを期待する。 ・白根高等学校はキャリア教育に力を入れており、社会に出てからの将来も見据えたインターンシップ制度はとても成果のあるものだと思っている。更にコミュニティスクールで地域交流など白根高等学校の独自性を生かした教育を進めていくこととしていた矢先のコロナ禍で活動が制限されてしまったことは残念だが、来年度は無事に実施でき大きな成果を得られることを期待する。
4	・部活動と学習の両立は易しいことではないが、引き続き活発な部活動を展開していただきたい。 ・この活動は感染症がおさまってくれば、さらに期待できると考えている。 ・毎日のホームページの更新には敬意を表します。 ・新聞、報道、雑誌などへの働きかけにより、白根高等学校を身近に感じる機会が増えた。 ・充実した学校HPやClassiなどを最大限活用し、生徒の体育・文化活動を含めた生徒の学校生活をきめ細かく発信し、保護者や地域社会の理解につなげている。健康と安全に配慮した部活動の活動計画を策定し、最適な運用に努めた。 ・学校ホームページは、非常に工夫され先生方の努力が拝見される。マスコミ等を通じて白根高校の魅力をもっと発信してください。 ・コロナ禍の中ではあるが、生徒の充実できる活動を引き続きよろしく願います。 ・大きな成果をあげている部活動があることは素晴らしいことですが、どの部活動もどの学校行事も人生においてとても大切な「健康・安全」につながっているところが高く評価できる。 ・部活動はウェイトリフティングの活躍が楽しみの一つとなり、応援しているところ。気がかりであった野球部も何と単独チームで出場出来る事となり安心している。学校の情報はホームページの更新がほぼ毎日行われ、素晴らしいと思う。 ・部活動も注目しているところである。全国大会出場ウエイトリフティング部は創部四年目にして素晴らしい成果をあげており、ウエイトリフティング部＝白根高等学校となる日も近いのではと期待している。写真部などの文化部の活躍や、男子生徒が少ない中での運動部も先生方やOBの指導により頑張っていると思う。またホームページの活用が素晴らしい時代にマッチした学校運営をしていると感じる。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。